

表1 質問の構成

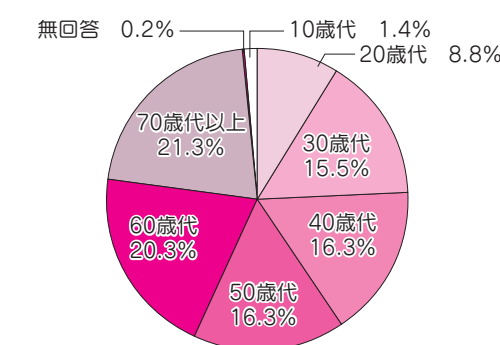
Table with 2 columns: 項目 (Item) and 質問の概要 (Question Summary). Rows include ①回答者の属性, ②今後の定住意向とその理由, ③主な施策に対する満足度と重要度, ④今後、特に力をいれるべき分野, ⑤協働のまちづくり活動.

表2 主な施策に対する満足度と重要度 (単位：%)

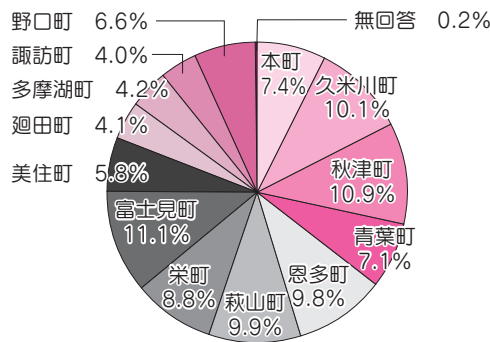
Table with 5 columns: 分野 (Sector), 施策 (Policy), 満足度 (Satisfaction), 重要度 (Importance), and 重要でない (Not Important). Rows are categorized by sectors like 環境 (Environment), 都市づくり (Urban Development), 産業 (Industry), 防犯・防災 (Safety/Disaster), 教育・生涯学習 (Education/Lifelong Learning), 健康・福祉 (Health/Welfare), and 市民参加・行財政改革 (Citizen Participation/Reform).

注1) 「満足」は「満足」と「まあ満足」、「不満」は「やや不満」と「不満」を足した値です。
注2) 「重要」は「たいへん重要」と「ある程度重要」、「重要でない」は「あまり重要でない」と「全く重要でない」を足した値です。
注3) 「満足」、「不満」、「重要」、「重要でない」の合計が高い上位5施策に色をつけて示しています。
注4) 無回答は除いています。

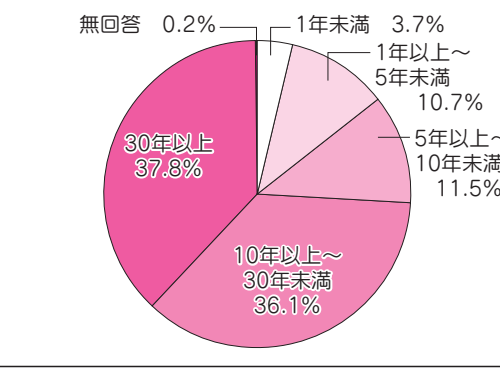
グラフ1 回答者の年齢構成



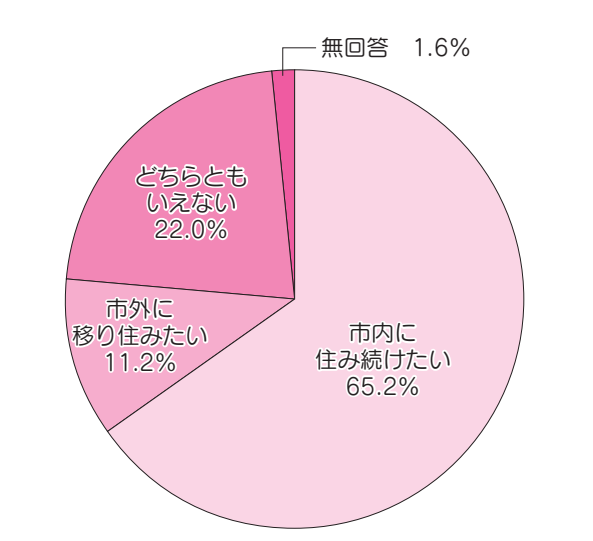
グラフ2 回答者の居住地区



グラフ3 回答者の居住年数



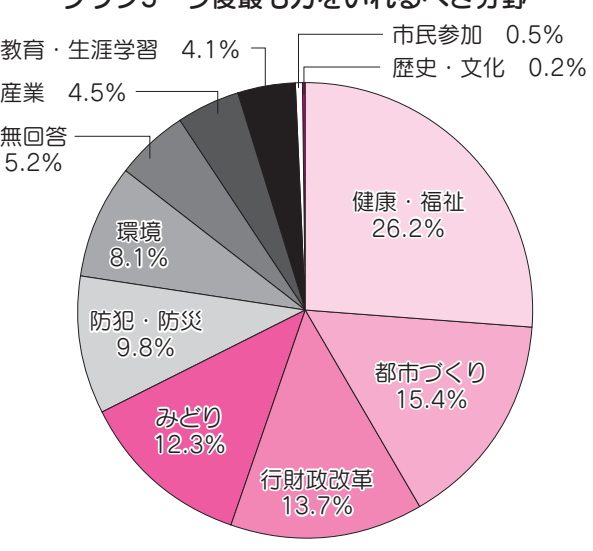
グラフ4 今後の定住意向



「不満」とする回答が最も多かった施策は「12 駅周辺部における駐輪場の整備」の47・6%であり、次いで「11 お年寄りや障害者にやさしい道づくり」の46・9%、「9 生活道路や幹線道路の整備」の43・0%の順であり、都市づくりに対する不満度が高い傾向にあります。

主な施策に対する今後の重要度について、回答が最も多かった施策は「11 お年寄り

グラフ5 今後最も力をいれるべき分野



今後、市が「最も力をいれ

力を入れるべき分野

や障害者にやさしい道づくり」と「39 医療サービスや救急医療体制」の82・2%であり、次いで「7 ごみの減量化やリサイクルの推進」の81・9%、「21 学校や公園等における防犯対策」の80・9%の順となっています。
※この記事の本文・グラフ中の数値は、端数処理の関係上、積み上げた値と合計値が一致しないことがあります。

東村山市の新しいまちづくりに向けた 市民意識調査の結果概要について報告します

問い合せ 政策室総合計画・行財政改革担当

市では「みんなで創る、みんなの東村山」を合言葉に、より多くの市民のかたの声を取り入れながら、平成23年から始まる第4次総合計画の策定を進めています。策定にあたり、市民のかたの視点を

調査対象 市内在住の満18歳

調査の方法 及び回収結果

※調査結果の概要は、市のホームページの「新着情報」からもご覧いただけます。



調査対象 市内在住の満18歳 有効回答数 2千66票(配布数4千90票) 回収率 53・67% ※配布数とは、標本数から白票と宛先不明で戻ってきた票を除いた値です。

以上の男女から無作為抽出した5千人 調査時期 平成20年11月4日～18日 調査方法 調査票の配布、回収ともに郵送 有効回答数 2千66票(配布数4千90票) 回収率 53・67%

調査結果の概要

定住意向

今後東村山市に「住み続けたい」とする回答は65・2%であり、全体の半数以上を占めています。住み続けたい理由としては、「住みながら愛着がある」が最も多く、

現在の満足度

市が取り組んでいる主な施策に対する現在の満足度について、「満足」とする回答が最も多かった施策は「1 里山や雑木林の保全、緑化の推進」の54・3%であり、次いで「7 ごみの減量化やリサイクルの推進」の37・8%、「2 河川や水辺空間の整備」の34・0%の順となっています。